

授業科目	*成人慢性期看護学実習（2023年度入学生）				実務家教員担当科目	-			
単位	2	履修	必修	開講年次	3~4	開講時期 後期・前期			
担当教員	原 賴子、中原 智美								
授業概要	<p>臨床において慢性期・終末期看護の実務経験を有する教員が、臨地指導者と調整を図りながら以下の実習目標の達成に向け、成人慢性期看護学実習を展開する。</p> <p>【目標】 慢性疾患をもつ成人の特性を理解し、患者およびその家族のセルフケア能力を高め、QOLの維持・向上を目指した看護を実践する能力を養う。</p>								
授業形態	対面授業		授業方法	実習					
学生が達成すべき行動目標									
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患をもつ対象の身体・心理・社会的側面について理解し、患者の全体像をとらえることができる (DP2-1)。 2. 慢性疾患をもつ対象の個別性をふまえた看護を展開することができる (DP2-1) (DP4-2)。 3. 慢性疾患をもつ成人に対して、生活の援助および診療に伴う援助技術を実践することができる (DP2-1) (DP4-2) (DP5-1) (DP5-2) 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方を考えることができる。 (DP3-2)。 5. 繼続看護の必要性およびそのために活用できる社会資源について述べることができる。 (DP3-1)。 6. 看護専門職としての責務を認識し、倫理に配慮した態度をとることができる (DP4-1)。 7. 慢性疾患をもつ成人のケアを通して、人の生き方や QOL について思考を深め、看護観を育むことができる (DP2-1) (DP4-3)。 <p>(具体的な行動目標は看護学実習要綱を参照してください。)</p> <p>教員や実習指導者の助言・指導を受けながら目標1～7を80%未満達成できる。</p>								
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患をもつ対象の身体・心理・社会的側面について理解し、患者の全体像をとらえることができる (DP2-1)。 2. 慢性疾患をもつ対象の個別性をふまえた看護を展開することができる (DP2-1) (DP4-2)。 3. 慢性疾患をもつ成人に対して、生活の援助および診療に伴う援助技術を実践することができる (DP2-1) (DP4-2) (DP5-1) (DP5-2) 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方を考えることができる。 (DP3-2)。 5. 繼続看護の必要性およびそのために活用できる社会資源について述べることができます。 (DP3-1)。 6. 看護専門職としての責務を認識し、倫理に配慮した態度をとることができます (DP4-1)。 7. 慢性疾患をもつ成人のケアを通して、人の生き方や QOL について思考を深め、看護観を育むことができる (DP2-1) (DP4-3)。 								
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患をもつ対象の身体・心理・社会的側面について理解し、患者の全体像をとらえることができる (DP2-1)。 2. 慢性疾患をもつ対象の個別性をふまえた看護を展開することができる (DP2-1) (DP4-2)。 3. 慢性疾患をもつ成人に対して、生活の援助および診療に伴う援助技術を実践することができる (DP2-1) (DP4-2) (DP5-1) (DP5-2) 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方を考えることができます。 (DP3-2)。 5. 繼続看護の必要性およびそのために活用できる社会資源について述べることができます。 (DP3-1)。 6. 看護専門職としての責務を認識し、倫理に配慮した態度をとることができます (DP4-1)。 7. 慢性疾患をもつ成人のケアを通して、人の生き方や QOL について思考を深め、看護観を育むことができます (DP2-1) (DP4-3)。 								

上記に加え、既習科目における関連知識や理論、技術を応用しながら患者を深く理解し、慢性期や終末期にある患者の個別性をふまえた看護実践ができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	40%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	0	
レポート外の提出物	0	
その他	60%	看護アセスメントおよび看護の実施・評価記録

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31313J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

学習課題（予習・復習）

1回の目安時間（時間）

3年前期の成人看護学演習で学んだ、技術を実践する時の根拠、看護過程展開の技術を振り返り、学習してください。

受け持ち患者の状態に合わせた日々の行動計画を立案・修正するために必要な根拠について学習してください。

授業計画

第1回	成人慢性期看護学実習は、3年次後期から4年次前期にかけて、指定された病院及び学内で2週間、6人程度のグループメンバーとともに実習します。 主に成人期の患者とその家族を対象に、健康レベルが慢性期、あるいは状況により終末期にある人の看護を実践します。 実習内容およびスケジュールの詳細は、看護学実習要項を参照してください。
テキスト	リンダJ.カルペニート；看護診断ハンドブック第12版（医学書院） 岡庭 豊：看護がみえる vol.5 対象の理解I 第1版、メディックメディア 2023
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	既習のすべての科目的テキスト、関連参考書、資料を活用します。 特に、「成人慢性期看護方法論」、「がん看護」、「緩和・ターミナルケア看護論」のテキスト・講義資料を積極的に活用して学習を進めてください。 図書館の指定図書コーナーにも、実習で活用できる図書を多数配架しています。ぜひ活用してください。
課題に対するフィードバックの方法	実習に必要なことは適宜フィードバックします。 臨地実習における「看護のまとめ」時には指導者よりフィードバックがあります。
学生へのメッセージ・コメント	①受け持ち患者の疾病に関する病態、関連する検査・治療など、事前の自己学習は必須です。 成人慢性期看護方法論、がん看護学、成人看護学演習をはじめ、看護形態機能学、疾病学、基礎看護学、臨床検査、 薬理学など既習の科目で学んだ知識を結びつけながら看護展開を行っていきます。 ②実習に必要な基礎看護技術やフィジカルアセスメント、成人看護学演習などで学んだ看護技術の自己練習が大事です。

- ③関連図書は身近に用意しておきましょう。
- ④実習中は自己の健康管理は必須です。
- ⑤困ったときは一人で悩まないで、グループの仲間や、教員・臨床指導者に相談してください。

